

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

● 100万人参観者運動を!

'81年4月来館者数 7,050名

通算1カ月平均来館者数 3,744名

通算1日平均来館者数 144名

通算来館者数 217,124名

相つぐ原子力事件に

人権と生命の尊重を訴える

主張

米原潜の当て逃げ事件

桜の木を切った自分の罪を潔く告白して、正直者の手本とされてきた「ジョージ・ワシントン」が、日本の貨物船に体当たりを喰わせ、乗組員二名を死亡させたあげく、グアム島に逃げかえったという事件がおきた。米原潜の日昇丸当て逃げ事件である。それは、どう弁解してみても、軍事行動の前には、一人や二人の人間のいのちは全く無視された実例である。

原発にみるさまざまな管理

私たちが前から予想し、心配してきた原発のさまざまな運営の結果が白日のもとにさらされた放射能廃棄物のたれ流し事件が、敦賀原発で起ってしまった。多くの従業員が被災したのみか、その原因は調べれば調べるほど新たな事故が発覚して、今後、汚染が付近の住民などにど

う影響するのか、解決は全く分らない状態である。

根はひとつの二大事件

この二つの事件は、実は、幾つかの点で共通の重大な問題を抱えていることがわかる。

第一に、何れの事件も、偶然には、思いもかけずに起っているのではなく、むしろ、起るべくして起っていることである。

第二に、何れも、目的のためには手段を選ばない、そこには恐るべき人権無視と生命の軽視とがある点で共通している。

エネルギー開発と言っても所詮は金儲けであり、採算上からは平気で人権や生命の軽視がまかり通る。それが原発の実体であり、核戦争準備のためには、人権や生命は物の数とも考えられない点で共通する。

責任の所在の不明確

第三に、何れも、その原因追

及があいまいであり、そのことは、二度と同じ事故が起らない対策とか、保障が少しも明確にされない。

そこには人権や生命にたいして「安全を守る意識」が全くなく、要するに責任逃れに終始、最後は当面の責任者の処罰とか金銭的な補償で片付けられる恐れすら感じられる。

金で生命は買えない
「法律上の責任の問題に関係なく」と慰謝料が払われて、幕となったビキニ事件の二の舞は繰り返してはならない。

何よりもまず、人権と生命の尊重が明確にされること、その上で事件の徹底的な説明とその公表、さらに責任の所在と二度と同じ事件が起らない保障を取りつけることが大切である。

それは軍事機密とか企業秘密とかで、ゴマ化されてはならない。

人権と生命は金銭で取引きざされてはならないことを、重ねて強調したい。

「これじゃいけない」と夫は…

久保山すずさん
テレビで証言

「あの日夫はどういうわけか玄関でなく、うらから入ってき たんです。非常に黒い顔をして 四月二十一日NHK教育テレ ーゼびこ参加下さい」

第16回ビキニ事件を知る集い

とき 五月二十八日(水) 午後六時半
ところ 労音会館 二〇一会議室

千代田区西神田三一九一〇
電話 二六五一六三六六

講師 甲山員司氏 (群馬大学講師)
テーマ ミクロネシアと米軍事戦略

アメリカのミクロネシア核戦略構想をつく

めいこうした運動をしていくべきだと思っすね。



▽いま、夢の島は若葉の季節を迎えて、陽に輝くつやつやとした木々のみどりは、何とはなしに見る者に活力を与えてくれます。その木々の足もとにはツツジが今を盛りと咲きはこつています。思わず「あゝうるわしの五月よ」というゲーテのことが口をついて出ます。

▽人間界の五月は、残念ながら少しも美わしくなく、米原潜当て逃げ事件、原発の廃液たれ流し事件、裁判官・警察官の不正事件、などなど百花斉放どころか百悪斉放の有様で、「人心暗き天が下なり」という歌人のことばが思わず浮びます。

▽太平洋非核化の実現が、いよいよ焦眉の問題として提起されているとき、諸悪の根源と対決しながら、この二〇世紀最大の人類の課題にどう取りくむべきか、心乱れる現実です。

▽展示館への来館者数の鰻のぼりに係員は嬉しい悲鳴。(H)

ビで放映された「ふるさとの証言、静岡県焼津・昭和29年」は、久保山すずさんの言葉からはじまりました。
以下、当日のすずさんのお話の一部。なおこのビデオテープは東京の吉村さんから寄贈されました。

ぐせのように私にいいました。…これじゃいけないということばは自分がしつかりしなければいけないということか、放射能をにくんでだったかわかりかねますけれど、これじゃいけないということばが最後だったと思います。

…見舞金もらってうらまれるのも当然とは思いますが、でも主人の命にはかえられないと思っす。ほんとにお金で解決されたと思うと情けないと思っす。

…今の若い人たちは原爆の恐ろしさも戦争の恐ろしさも、みな知らないと思うんです。ですからそういうことを知ってる方にいろいろ話きいて、原爆は恐ろしいんだ、決して戦争なんか起しちゃいけないんだという意識でも、ほんとに主人の死を大事にしていかなきゃいけないんだと思っす。

春たけなわの展示館

1日の来館者の記録を更新



春の訪れと共に、展示館は内外の来館者で賑わっています。去る四月十二日(日)には、二四〇名の来館者を教え、これまでの記録を更新しました。また、団体見学も目ざましく増加し、活気に満ちています。

パラオ代表が見学
去る四月二十五日午後、沖縄で開かれる「核基地をなくす沖縄国際会議」に出席途上のパラオ代表、モーゼス・ラユルイ氏(大統領補佐官)と、サルバドール・カトウサン氏(高校・化学教師)の二氏が来館。広田重道専務理事の案内で館内を一巡。そのあと約一時間にわたって懇談し、今後の友好を約してふりしきる雨の中を帰途につきました。

なお、この席上に、昨年パラオを訪問された東京原水協の吉村道興氏も参加しました。多様化する団体見学
また、団体見学の増加もめざましく、都内の学校の社会科見学はもちろん、長野・和歌山・山形・滋賀などからの修学旅行による来館や大阪総評婦人部が来館するなど、四月中に一二団体が来館。四月としては過去最高の見学団体を迎えました。

第43回理事会・評議員会ひらく

去る五月七日、午後〇時半より、神田・学士会館で、平和協会第四三回理事会が開催されました。同理事会では、第八期決算報告書が承認された他、展示館開設五周年記念祝賀会、同大衆集

ましく、都内の学校の社会科見学はもちろん、長野・和歌山・山形・滋賀などからの修学旅行による来館や大阪総評婦人部が来館するなど、四月中に一二団体が来館。四月としては過去最高の見学団体を迎えました。これらの団体の中で特徴的なことは、修学旅行コースに展示館を取り上げる学校の増加と、事前学習を行なっているから、社会科見学で来館する学校の増加。江戸川区の「あすなる会」など親子で訪れる団体、労働組合や婦人・民主団体の見学など、見学団体が多様化していること。この現象は、更に進むものと思われまます。

会の開催とその持ち方など、当面の行動方針が決定されました。また、同日午後二時より、同じ会場で、平和協会拡大評議員会が開かれ、原水爆資料室開設問題などで熱心に討議しました。(詳細は次号)

トピックス

▼核基地をなくす沖縄国際会議ひらく
「アジア・太平洋・インド洋を核戦争の足場にするな」をスローガンに四月二十八日から三日間沖縄で開催。太平洋諸島はじめ15地域の海外代表、日本各地から三百余名が参加しアメリカの太平洋核戦略を告発。
▼核兵器廃絶世界宗教者集会
四月二十二日から三日間東京でひらかれた会議には宗教家はじめ58カ国百七十名の海外代表が結集。人類の生存のために「ま立て」の誓いを世界にアピール。協会から連帯の電報を打電。
▼世界各地で核兵器ノリのデモ
四月十八日ブリュッセルで核配備反対のイースター行進。13カ国七千人。イギリス核軍縮運動は同日山野横断のデモ。同二日ノルウェーで北欧非核地帯化を要求する署名運動。同五日アメリカ・カナダ60カ所での核軍拡阻止のデモ。同二六日グアムで国際反核集会などなど。

来館者の声から



今、平和の貴さを忘れかけているとは言えないか。
だからこそ、平和について、よく考え、そのための努力をすることが大切であろう。この館の展示を見ながらそう感じた。

無記名

戦争は絶対反対です。核兵器を作るような知力のあるはずの人が、どうしてわからないのでしょうか。自分さえ核の被害にあわなければいいと考えてのことなのでしょうが……。
世界はつながっています。地球はたったひとつです。目に見えない汚染は進んで、そのうち、まわりまわって、シッペ返しを喰うことになるはず

これで見に来たのは二回目だけど、いつきても、このようなことはむごいことだと思えます。ぜひたいにこのようなことを二度とくりかえさないように。ぜひたいに！
(ここに飾ってあるツルを折った一人です)
中原小六ノ四 古川克彰

大阪の婦人労働者

人のため、まわりの全ての生物、自然の為に、平和を、戦争反対！核兵器製造反対！みんなの幸せを願って……。
朗読の会・いとでんわ
樋口由利子(二八)

本で読んで、この被爆のことは知っていましたが、見学は初めてです。
何よりも、戦争がいかに残酷で悲惨なものであるかを戦争体験者から若い世代の私たちが受けついでゆかねばならないと思

います。
平和の砦は外に築くのではなく、人間のいのちの奥に、確固

観念的な平和論に終始してはならない。漠然とした平和な感じの中にドップリつかっている

たる思想、理念のもとに築いてゆかねば真の平和はありえないでしょう。
そのために、若いうちから、自分なりの平和への関与というもの的心してゆきたいものです。
足立区 鶴沢良江

今の子供たちは、原水爆についてあまり知らない。ぼくも、ここにくるまでは、原水爆のおそろしさを、あまり知りませんでした。
日本中の子供たちを、この第五福竜丸展示館にこさして、原水爆について教えたい。
無記名

大阪の婦人労働者

▼戦後史の決定的瞬間に福竜丸現代史の「決定的瞬間」写真二百八十点という「現場カメラマンの戦後史展」(毎日新聞社主催)が四月中旬東京のデパートで開催。安保闘争・沖縄返還などにまじって「第五福竜丸事件」が写真四点、新聞二点の大幅に一面を占めた。中でも久保山さん死すの写真は思わず足をとめる迫力にみちたもの。協会からも見学にかけつたが新聞社の好意でパネルが寄贈されることになり展示会を計画中。

▼読売新聞の「顔」に三宅会長同夕刊の連載の「顔」の一九七九回(四月十日)に三宅会長が登場。「内外の核禁運動にさえがなくなっている。日本が国際運動のなめにある」という認識が薄れてきたせいだ」と手きびしく指摘されていた。
▼広田氏「憲法と国際平和を考えるつどい」で講演
四月二十九日、日本科学者会議など実行委主催のつどいに「太平洋非核化運動と日本の平和」と題し約一時間にわたり講演。